

平成 30 年度物品・役務等に係る契約適正化監視等委員会
定例会議審議概要

開催日及び場所	平成 30 年 11 月 30 日（金） 環境省第二、三会議室
出席委員 (50 音順)	大久保規子（大阪大学大学院法学研究科教授）、田路至弘（弁護士）、野村豊弘（日本エネルギー法研究所理事長）、蓑輪靖博（福岡大学法学部教授）、森嶋昭夫（名古屋大学名誉教授）
開催趣旨	環境省が発注する物品・役務等に係る契約について、契約方式を含む契約過程や契約内容の透明性の確保、予算執行の効果的な実施など環境省における公共調達の一層の適正化を図る観点から、平成 29 年度に当省が締結した物品・役務等の契約の中から抽出した事案の審議を行った。
審議案件	<p>総数 10 件</p> <p>○競争入札方式（8 件） <総合評価落札方式></p> <p>① 平成 29 年度海辺の再生・創出調査業務 ② 平成 29 年度森里川海の恵みを次世代につなげるプログラム実施業務 ③ 東日本大震災に係る海洋環境モニタリング調査業務 ④ 平成 29 年度低炭素物流政策検討調査委託業務 ⑤ 平成 29 年度帰還困難区域における特定復興再生拠点整備事業（仮称）に係る調査業務 ⑥ 平成 29 年度放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線による健康不安の軽減等に資する住民参加意見交換会の実施及び理解増進活動）委託業務 ⑦ 平成 29 年度環境研究総合推進費制度運営・検討委託業務 ⑧ 平成 29 年度生物多様性及び生態系サービスに関する科学的知見に係る調査業務</p> <p>○参加者確認公募方式（1 件） ⑨ 平成 29 年度環境放射線等モニタリング調査等業務</p> <p>○不落・不調随意契約（1 件） ⑩ 平成 29 年度温室効果ガス排出抑制等指針業務部門の取組充実に係る調査委託業務</p>
委員の意見等	別紙のとおり（抽出された個々の契約案件についての意見具申、または勧告はなかった。）

(別紙)

委員からの意見・質問、それらに対する回答等

抽出案件	■意見・□質問	回 答 等
総合評価落札方式		
①平成29年度海辺の再生・創出調査業務	<p><input type="checkbox"/>入札説明会に参加したものの、入札に参加しなかった業者があるが理由は把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>前年度企画競争を行ったことによって新規参入が阻害されているということはないか。</p>	<p><input type="checkbox"/>本業務を実施することは困難であると判断したため、入札に参加しなかったと聞いている。前年度業務の蓄積がある業者と、さらに価格で勝負することが困難であったのではないかと推察している。</p> <p><input type="checkbox"/>前年度の報告書を公開することで競争性を確保したが、仕様書の記載や公告期間を設定をさらに工夫していきたい。</p>
②平成29年度森里川海の恵みを次世代につなげるプログラム実施業務	<p><input type="checkbox"/>一者応札をどのように分析しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>成果物の活用状況は。</p>	<p><input type="checkbox"/>昨年度の業務によってある程度の方向性が出たため、複数者の応札を期待していたが結果的には難しかったのではないかと推察している。</p> <p><input type="checkbox"/>全国の図書館に配布しているほか、電子書籍として無料で公開している。</p>
③東日本大震災に係る海洋環境モニタリング調査業務	<p><input type="checkbox"/>単年度契約から複数年契約に変更したが結果として複数者の入札とならなかったことについてどのように分析しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>他府省のモニタリングとの比較は行っているか。</p> <p>■他府省の調査との連携</p>	<p><input type="checkbox"/>実施要綱について外部有識者に確認いただき、また、パブリックコメントを実施したことによって、可能な限り内容や表現の適正化に努めたところ。このような中、一者応札となったのは専門的なノウハウが必要な業務であったため対応できる業者が無かったものと考えている。</p> <p><input type="checkbox"/>他府省との役割分担は適切に行っていたため、価格面での比較は特に行っていない。</p>

<p>④平成29年度低炭素物流政策検討調査委託業務</p>	<p>など成果が効果的に使われるように期待したい。</p> <p><input type="checkbox"/> 低落札率についてどのように分析しているか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 今回の業務では文献調査、ヒアリング、ケーススタディ等を行っていただくものであり、これに対応するための人件費を積み上げたものである。落札者以外の入札額をどう捉えるかにもよるが、今後同種の委託業務を行う場合には積算を精査していきたい。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 様々な発注機関から同種の業務を受けたことにより既存の資料をまとめ上げただけということはないか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 知見の積み重ねが低落札率につながっている可能性はあるが、低炭素化という観点から行われている業務は本業務以外にはない。</p>
<p>⑤平成29年度帰還困難区域における特定復興再生拠点整備事業（仮称）に係る調査業務</p>	<p><input type="checkbox"/> 入札説明会に参加したものの、入札に参加しなかった業者があるが理由は把握しているか。</p>	<p><input type="checkbox"/> アンケートを実施したところ業務執行に必要な人員とか技術員の確保が困難と判断したとのことであった。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 低落札率についてどのように分析しているか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 予定価格については他者の見積もり等市場価格も考慮の上決定しており適切な価格であったと考えるが、今回の結果を受け、本年度からは契約実績も考慮して予定価格を算出している。</p>
<p>⑥平成29年度放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線による健康不安の軽減等に資する住民参加意見交換会の実施及び理解増進活動）委託業務</p>	<p><input type="checkbox"/> 意見交換会の回数の設定はどのように行っているのか。また設定回数を行えばリスクコミュニケーションが出来るのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 事前に地元のニーズを確認した上で回数を設定している。</p>
	<p><input type="checkbox"/> 昨年度の同業務を県内と県外に分割されているが分割方法は適切であったか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 分割して発注したものの、県内は一者応札のみであったが、自治体や避難住民の状況を考慮して県内をまとめて発注しており、合理的な分割であったと考える。</p>

<p>⑦平成 29 年度環境研究総合推進費制度運営・検討委託業務</p> <p>⑧平成 29 年度生物多様性及び生態系サービスに関する科学的知見に係る調査業務</p>	<p>□契約額と確定額の差額はどのような理由によるものか。</p> <p>□基本的な業務とデータベース化業務は分割して発注することによって一者応札を解消できるのではないか。</p> <p>□専門性を必要とする業務であることは理解できるものの、もっと競争が働くのではないか。</p>	<p>□会場費用がかからなかったことや近隣の講師を招聘できたことによる旅費の減少が主な要因となっている。</p> <p>□データベース化にあたり、本業務で設置しているプログラムディレクターの監修が必須となり、また、データベース化後における活用についても、とりわけ分析の際には同ディレクターが大きく関わってくることから一体として行う必要があるもの。</p> <p>□受注業者が専門性の高い団体であることは間違いないが、対応可能な業者は他にもあると考え、競争入札を行ったところである。</p>
<p>参加者確認公募方式</p>		
<p>⑨平成 29 年度環境放射線等モニタリング調査等業務</p>	<p>□放射線量の測定を行える業者は複数存在するが一者応札となっている理由をどのように分析しているか。</p>	<p>□本業務では一般的な放射線量の測定に加え、土壌や周辺の湖の水なども併せて測定、分析しているところ。受注者は半導体ゲルマニウムという大変高価な機器を持ち、精密かつ正確な測定が可能な業者であるため、本業務に対応可能だったのではないかと推察している。</p>
<p>不落・不調随意契約</p>		
<p>⑩平成 29 年度温室効果ガス排出抑制等指針業務部門の取組充実に関する調査委託業務</p>	<p>□一者応札となっている理由をどのように分析しているか。</p>	<p>□平成 28 年度に ZEB を計算するための建築物省エネ法が施行されたため、対応可能な業者が少なく一者応札になったものと推察しているが、法律は ZEB の概念が広まりつつあり、今後同種の事業を行う場合は複数者の応札が見込めるのではないかと考えている。</p>